先週の回答

「ここんとこ見かけないから死刑になったんじゃなあい？」

「そうかしら、そう簡単に死ぬ女かしらあの人」

法務大臣が判を押せば死刑は執行されるようだが、あの人の執行に判を押す勇気ある法務大臣はいないだろうとわたしは思う。

あの人とは『和歌山毒物カレー事件』の犯人林真須美である。今から丁度二十年前の一九九八年七月二十五日の夕方、和歌山市の園部地区で行われた夏祭りで、カレーを食べた６７人が腹痛や吐き気などを訴えて病院に搬送され、４人が死亡した。和歌山県警は当初青酸中毒と判定したが、科学警察研究所が改めて調査し、亜ヒ酸の混入が判明。

当時は二六時中、どのＴＶチャンネルをひねっても、容疑者として浮上した夏祭り事件の現場の近隣に住む主婦、林真須美の一挙一動を群がって追いかける報道陣の塊りがＴＶ画面を占拠していたのを思い出す。

あれだけ大騒ぎしたのに、逮捕されると潮が引くように、人々は（わたしなんかも）「やっぱりなぁ」で興味が他に移ったのも思い出す。とかく野次馬は「次いこー」癖がある。

最後まで見届けなければ失礼とは言わないが、彼女は二〇〇九年最高裁で死刑が確定して現在服役中である。

わたしは死刑廃止論者ではないが、いや、むしろ人を殺したら、人間の命の重みは誰も同じ、掛けがえのないものだと考えれば、同じ重さで（死をもって）償うのは当然だと思う（死刑賛成論者に入るかも）。

が、死刑を執行するのは、犯行が間違いないと保証された場合もにである。死刑が執行された後、真犯人が出てきたり、犯行に疑問が生じた場合、とりかえしがつかないことになる。

この事件は、ほとんどが状況証拠である。確証（指紋とかＤＮＡ鑑定、監視カメラなどもそれほど設置されていなかった。たとえ林真須美に瓜二つの女（髪型や太り具合など）後ろ姿を目撃したとしても、瓜二つの別人かもしれない、そんな偶然はあり得ないと言い切れないのではないか、と思う。状況証拠の積み重ねで９９．９％彼女が犯人だと推定されても、０．０１％が残っていれば断定には一抹の躊躇が残る。

彼女が牢獄でいかなる毎日を過しているのかは想像するしかないが、聞くところによると再審請求に望みを託しているとのこと。

真実を知るのは、神（いるなら）と林真須美本人のみである。彼女との付き合いのないわたしにはわからないが、逮捕前のあの泰然自若な態度、内に秘めた不撓不屈の精神、二十年前の容貌を思い浮かべると、このまま終わらないような、いささか不気味さを感じる。

あなたも「そう簡単に死ぬ女かしらあの人」と思いません？

今週の問題

□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。